

～チャレンジ桜井～



「挑戦」から得られるもの

副校長 清野 正康

日中は半袖の服でも過ごすことができる暖かい秋の日々が続いていますが、空を見上げると秋空の象徴であるいわし雲が見られたり、赤や黄色に色づいた校門横の桜の木から次々と葉が散ってきたりと、確実に季節が進んでいることが感じられます。深まりゆく秋に、スポーツ、読書、芸術、旬の食材を使った料理などに挑戦し、味わい深い時間を過ごしたいものです。

さて、10月には桜井小でも多くの「挑戦」が見られましたので、その中からいくつか紹介します。

10月2日・3日には、4年生が上郷宿泊体験学習に行ってきました。家族と離れて宿泊することが初めてという子もいました。夜には自分たちで計画したレクで盛り上がりました。薪割りや火起こしにも挑戦し、焼きマシュマロを味わいました。しおり作りやレクの準備は大変だったと思いますが、帰校してきたときの子どもたちの表情は達成感と笑顔に満ちていました。

10月11日・12日には、6年生が鍛冶ヶ谷にある正翁寺で坐禅体験をしてきました。社会科の歴史学習の一環として実施したのですが、小鳥のさえずりや水の流れる音以外は聞こえない静かな禅堂で目を閉じている時間は本当に心地よく、20分間があっという間に過ぎていきました。気持ちをピリッとさせたければ、自ら手を合わせて警策（きょうさく）で叩いていただきます。警策の音がたくさん聞かれたことから、きっと多くの子たちが警策をいただくことにドキドキしながら挑戦したのでしょう。

10月17日・18日には、5年生が愛川宿泊体験学習に行ってきました。先日の「心の教育ふれあいコンサート」で課題として残った「時間を守って行動する」を達成するために、「しおりで活動の開始時間や必要なものを確認し、見通しをもって行動すること」を大きな目標に掲げました。「先生、次は何をするの？」という質問は一度もありませんでした。しおりで次の活動を確認し、友達同士で声をかけ合うことができたのです。日産車体見学でもレインボープラザでの藍染め・手織り・組紐体験でも、マナーよく行動でき、たくさん褒めていただきました。愛川ふれあいの村でも、友達と励まし合いながら楽しい時間を過ごした後、次に使う人たちのために、自分たちが使ったロッジを隅々まできれいに掃除しました。桜井小の後にこのロッジを使う団体は、きっと気持ちよく使えたのではないのでしょうか。

このように、初めてのことに挑戦したり、前回の反省を踏まえてよりよい行動ができるように挑戦したりした子どもたちですが、達成できたこともあれば、課題として残ったこともあります。私は、「挑戦」から得られるものについて考えながら子どもたちの姿を見ていました。学校では日常的に様々な挑戦場面があります。「失敗するかもしれないから・・・。」と挑戦することを躊躇する子もいます。それは、失敗を最終結果だと考えているからだと思います。挑戦は「将来に向けての練習」であり、その過程で失敗はつきものです。失敗から自分に足りないものを知り、次の挑戦にはしっかりと準備して臨めばよいのです。失敗は自分を知ることができる貴重な経験です。将来、重要な局面に立った時、自分にとって最適な道を選ぶことができるよう、今のうちから様々な挑戦を通して自分自身を知ってほしいと思います。私たち大人は、子どもたちの挑戦にとことん付き合う覚悟をもち、その都度「ナイスチャレンジ!」と褒めていきたいものです。「今考えると、あの失敗から〇〇を学んだよ。」と、大人が自分の失敗体験をユーモアを交えて披露すると、子どもも失敗を過度に恐れることなく、前向きな気持ちで挑戦できるかもしれません。